

マタイの福音書（前半）ふり返り

1. マタイが主イエスについて見聞きしたことや主イエスの教えをまとめて編集し、福音書として書き残す中で、強調しようとしたことは何でしょうか。
聖書全体が描く神と、イスラエルの歴史の中で預言された約束の成就是イエスである、ということ
2. マタイがイエスの系図から始めていることには、どのような意味がありますか。
イエスはダビデの血筋に繋がるメシアであり、アブラハムの子孫であることを示そうとしている。
3. イエスの誕生の物語は、旧約聖書とどのようにつながりを示していますか。
イエスの誕生が預言の成就であることを示している。そのすべては、イエスが単なる人間ではなく、人と共におられる神であることを示している。
4. この福音書は大きく5つのセクションにまとめられますが、それはイエスのどのような面を示していますか。
モーセのような権威ある教師という面。イエスが新しいモーセとして新しい教えを受け、人を罪から救い、神と人との間に新しい契約を結ぶ者であることを示している。
5. このマタイの福音書前半の動画では、5つのセクションのうち最初の3つを扱っていますが、それぞれのポイントをまとめてみましょう。
 - ① 王であるイエスを通して完成する神の国（4～7章） それは強者が優遇されることのない逆転の王国であり、律法の成就である。
 - ② 人々の日常生活の中で実現する神の国（8～10章） イエスに従い弟子となることによってのみ、その恵みの力を体験できる。
 - ③ イエスに対する人々の反応（11～13章） 反対する人もいるが、神の国の拡大はそのことによって止まることはない。